

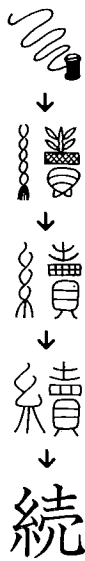
続

四年

筆順 13
オソ
ツヅ

つづーくーける

成り立ち



「読(年209)」のつくりの「売」と「糸」とを組み合わせて作った字です。

「読」が「言(ことば)」が長く「つづく」ことを表すように、「続」は「糸が長く「つづく」こと」を表したものです。

今は「糸」にかんけいなく、「つづく」「つづける」という意味に使われます。例連続、継続、接続。

「続」や「読」の「売」は、「売買」の「売」と字形は同じだが、元の字は異なる(「読」の項参照)。音もバイに対してゾク(ドクはその転訛したもの)である。]

使い方

▽ぼくはある雑誌を継続して読んでいます。ある連続ものの小説を読みたいからです。いつもおもしろい所で、「次回に続く」ということになってしまいます。そんな時は、早く続きが読みたくてたまりません。

熟語例

▽連続(連なって続くこと。とぎれることなく続くこと。「これでもう三日連続して雨が降っている」などというふうに、つかいます。)

▽継続(前から行われていたことを引き続いてすること。またうけ継いで続けること。「町をきれいにする運動は継続して行わなければなりません」などというふうに、つかいます。)

▽接続(続くこと。また、つなぐこと。「接続詞」といえば、文と文、言葉と言葉をつなぐ言葉です。「そして」や「しかし」など)

▽断続(とぎれたり続いたりすること。「断続的に激しい雨が降って来る」などというふうに、つかいます。)

▽続発(つぎつぎと続いて起こること。「盗難事件が続発しているから、貴重品に注意するように」など)

使い方

▽軍曹は五人の兵卒をつれて、あたりを見まわりに行きました。

▽卒年昭和三十年、五十九歳でした。

▽十八歳の若さで卒然として世を去りました。

熟語例

▽兵卒(身分のひくい兵士)

▽從卒(将校の身のまわりの世話をする、身分のひくい兵士)

▽卒去(死ぬこと。「四十二歳で卒去した」などというふうに、つかいます。)

▽卒年(死んだ年。また、死んだ時の年齢)

▽卒業(一定の学業を終えて、学校を出ること。)

▽卒然(いきなり。突然)

▽卒中(脳出血などで、いきなり倒れる病氣)

▽卒倒(いきなり気を失って倒れること。「血を見たとなん卒倒した」などというふうに、つかいます。)

卒

四年

筆順 8
オソ
ソツ

ソツ

成り立ち



「衣服(着物)」の形を表した「衣(衣441)」と、「十」とを組み合わせて作った字です。

むかし、身分のひくい兵士が着る着物には「十」のしるしがついていました。それで、「身分のひくい兵士」のことを「卒」といいました。例兵卒、從卒。

死んだ人の着物にも「十」のしるしをつけましたので、「人が死ぬ」ことの意味にも使われます。例卒去、卒年(死んだ年。また、死んだ時の年齢)。

「世を終わる」意味から「仕事を終わる」ことの意味にも使われます。例卒業(学業を学び終わる意味)。

また、人の死は「いきなり」や「つて来る」ことからの「いきなり」という意味にも使われます。例卒然、卒中。